「環境・社会報告書 2013」を読んで

愛知学院大学大学院
教授　博士（経営学）
丹下 博文氏

1950年、愛知県生まれ。早稲田大学法学部卒業、同大学院法学研究科修士課程修了。米コロンビア大学経営大学院修了（MBA）、同大学院客員研究員。UCLA（米カリフォルニア大学ロサンゼルス校）経営大学院および社会公共政策大学院客員研究員などを経て現職。環境経営学会より第1回学会賞（学術貢献賞）を受賞。現在は環境経営学会理事、名古屋市エコ事業所認定審査会委員長、日本物流学会副会長なども務める。主著に『企業経営の社会性研究』『地球環境辞典〈編著〉』（以上、中央経済社刊）、『環境基礎読本』（国立印刷局刊）など多数

環境経営とともに企業の社会的責任（CSR）や社会貢献の研究者としての専門的な知見と経験を踏まえ、客観的な視点から以下に第三者意見を簡潔に述べます。株式会社東海理化およびそのステークホルダーの皆様のご参考になれば幸いです。

「見える化」を考慮した分かりやすさ

本報告書を読んで最初に好感したのは、一般のステークホルダーにも分かりやすいように「見える化」されている点。専門的で詳細な記述は、かえって理解しづらくしてしまうことが多いからです。したがって、本報告書は環境コミュニケーションのツールとしての役割を十分に果たしていると考えられます。FSC森林認証紙を使用し、針金を使わない「のり綴じ製本」になっている点も高く評価されます。

ガイドラインに準拠した透明性と正確性

対象工場の視察や担当者との面談調査により、同報告書は環境省やGRIのガイドラインに準拠し、透明性と正確性の面で適切であると判断されます。実際にも本報告書のトップメッセージ、経営理念、環境方針、中長期環境取り組みプランに明示されているコミットメントは尊重されており、コンプライアンスやコーポレートガバナンスにかかわる組織的対応が明確で、数値による裏付けも掲載されています。

環境への取り組みは本業と同じくらい重要

特集には同社の新製品が取り上げられていますが、世界で初めて「竹」を素材にしたステアリングホイール、3Dドライ転写工法を用いた加飾パネル、安全性を追求した世界最小・最軽量のシートベルトの実物に触れ、製品に対する環境配慮を実感しました。また、「省エネ道場」による環境教育の徹底は、環境への取り組みが本業と同じくらい重要な位置づけで行われていることを認識させてくれました。

グローバル化と高齢社会への対応が課題

同社ではボランティアなどの社会貢献活動が活発に行われています。その背景には過去に災害で苦難を味わったという実体験があり、決してお題目ではないことを確認しました。ただし、日本の自動車産業はグローバル化が進んでおり、環境や社会への対応もグローバルな視点が絶対に欠かせません。さらに高齢社会を迎えた今日、高齢化への対応が同社の社会性を一層向上させるうえで今後の課題になるでしょう。

以上を総合的に判断し、これからも環境や社会への対応に継続的に取り組み、環境に配慮した製品で豊かな社会づくりに貢献するフロントランナー企業として持続可能（サステイナブル）な成長と発展を実現されるよう同社に期待します。

▲当社の省エネ設備・技術を紹介する「東海理化エコツアー」を体験していただきました。

第三者意見を受けて

環境統括役員
常務取締役　中村 弘之

本年の報告書は従来からのコンセプトである『読む気になる報告書』、『読んでわかる報告書』に加えて『読んでおもしろい報告書』となるよう社員インタビューの掲載や、特集記事に「製品」をとりあげるなど、ステークホルダーの皆様に東海理化という会社をより身近に感じてもらえるよう作成しました。

丹下先生には、「見える化を考慮したわかりやすい報告書」とそのあたりを評価いただき、非常に嬉しく思います。また、課題として日本社会が抱える高齢化と自動車業界が抱えるグローバル化についてご指摘いただきました。当社が真にグローバルで競争力を持つ会社となるために、両課題とも真摯に受け止め、取り組みを進めていく所存です。